

グリーンベルトの石花壇

副校長 細井 宏一



グリーンベルト(校庭北側の通路)北側境界にあるブロック塀の工事を、現在行っています。体育の授業や、休み時間、サッカー同好会(子供)やキックルズ(保護者サッカーチーム)の皆さんの練習、保護者の皆様の通路にも影響が出ています。工事は、3月いっぱいまでかかる見通しで、皆様にはご迷惑をおかけして申し訳ございませんが、ご理解の程お願い申し上げます。

グリーンベルト北側の花壇は、石が並んで形成されています。日常の光景になっていたもので、これまで石がどのように設置されているかを正直あまり意識したことがなく、「石を土に埋めて並べているのだろう」ぐらいに思っていました。ところが、取り壊し工事を始めると、実はとてもよく工夫されているとともに、安全を考慮した丁寧な作業があったことがわかりました。

石をよく見ると、黒っぽい石、青っぽい石、白っぽい石、盾のような形の石、…があり、おそらく日本各地の様々な岩石が集まっているのでしょう。そして石の色や形の特徴を活かすように、うまくきれいに並べて2段の花壇が整備されていました。また、石の裏側は平らに加工されているとともに、すべてコンクリートで側溝に接着し、隙間を埋めてあったのです。外見では、ただ土に刺してあるだけのように見えたのですが、見えないところでしっかり固定されていました。きっと安全面を考慮して倒れないようにしたのでしょう。どこかの番組の言葉ではありませんが、すごく「いい仕事」がされていたのです。

先輩の先生に、グリーンベルトの石花壇のことを尋ねました。すると、本校の教員と保護者の協力で造られたものだということがわかりました。昔、稲森先生という女性の理科の先生がいらっしゃいました。「大泉の母」とよばれた素敵な先生です。その先生のご主人様が、東京学芸大学の地学の教授で、子供たちのために監修してくださり、保護者の方のご支援・ご協力を得て造られたものだそうです。今から40年くらい前のことと伺いました。

石はかなりの重量がありますから、運搬が大変です。その上きちんと加工されて、コンクリートで接着してあり、たいへんな仕事であったことが想像されます。私は、先輩の先生方やPTAの方々の、菊の園に対する熱い想いを感じると同時に、何か身の引き締まる思いがいたしました。

ブロック塀工事は、岩石を撤去せずにはできないため、石花壇は無くなってしまいますので、とても残念ですが、なんとかいくつかでも岩石を残して、先輩の皆様の思いを残せるようにしたいと考えています。

